

## 「みんなで作ろう 能登のわ」

### 1 趣 旨

不登校傾向にある小・中学生が、普段の生活から離れ、国立能登青少年交流の家で寝食をともにしながら様々な自然体験活動を体験することで、自立心やコミュニケーション能力を育成する。

### 2 ねらい

- (1) 体験活動や創作活動を通して、自分でできることを増やし、最後まで根気強く取り組む力を身につける。
- (2) 仲間との活動を通して、相手に対する思いやりや感謝の気持ちをもつとともにコミュニケーション能力を高める。

### 3 日 程

- (1) 期 日 1回目 平成25年 7月11日(木)・12日(金)  
2回目 平成25年12月11日(水)・12日(木)
- (2) 参加者 1回目 6名 2回目 7名 合計 13名  
(※いずれも七尾市教育研究所「わかたけ」に通室している生徒)

(3) 研修内容

【7月11日・12日】

9:00 12:00 13:00 16:00 19:30 20:30 21:30

	昼食	ディスクゴルフ	野外炊飯 (カレーライス)	花火 星座観察	
陶芸(手びねり)	昼食	アンケート			

【12月11日・12日】

9:00 12:00 13:00 14:30 17:00 20:00 21:30

	昼食	クリアキャン ドル	お菓子作り・飾り 作り・会場準備	クリスマス の夕べ	
七宝焼	昼食	アンケート			



野外炊飯



手びねり



七宝焼

## 4 成果と課題

### (1) 参加者の満足度結果から

事業の満足度をアンケートにより調べたところ、事業全体に対する満足度、プログラムに対する満足度、運営面に関する満足度は、7月も12月も100%であった。余裕のあるスケジュールの中で、仲間とのふれ合いがあり、花火やクリスマスの集いがよい思い出となっているようである。特に男子は、寝食を共にすることで、さらに交流を深めた感がある。

### (2) 生徒の感想

- ・ 包丁がうまく使えるようになったので、カレーライスで野菜を切ったことがためになった。
- ・ 野外炊飯が楽しかったです。
- ・ たくさんのしたことのない体験やいろいろなサプライズなどがとてもおもしろくて楽しかったです。次回も参加したいです。
- ・ 初めての経験ができ、わからないところは全部教えてくださってうれしかったです。
- ・ 今までやった事がない行事があつて不安だったけど、やってみると楽しかったです。交流の家の職員の人たちもやさしく対応してくれてうれしかったです。

### (3) 成果と課題

#### 《成 果》

- ・ 不登校の生徒を対象に、日常生活から離れた中で野外体験や宿泊体験、創作活動の機会を提供できたことは大きな成果である。生徒達は、活動の中で小さな成功体験を重ねる。その積み重ねが自信につながるものと思われる。
- ・ 野外炊飯によって、メンバー1人1人に成就感や満足感を与えることができる。
- ・ 創作活動は、創造性を育むことはもちろん、制作の過程で行われる自己との対話によって精神の安定を図ることができる。
- ・ 9月に参加者の事後の変容を確認すると、学校へ通学する方向で検討している生徒が1名いることがわかった。
- ・ 12月の2日目の活動に、予定では不参加だった生徒が1名参加できたことは、活動が生徒の興味を刺激したからであると推察される。
- ・ 国立能登青少年交流の家の担当職員も、一緒に活動に加わることで、事業を通して対象生徒と交流をもつことができた。お互いに良好な人間関係を築けたことは、他者とのコミュニケーションを苦手とする児童生徒にとってはよい経験になり、自信を深める結果となった。
- ・ 事業終了後のアンケート評価も高く、今後も継続して取り組みたい。

#### 《課 題》

- ・ 7月の体験活動として、野外炊飯とともにカヌーを提案した。残念ながら日程の関係で実施できなかった。次年度は、カヌーの操作やペアの協力などを体験から学んでほしい。
- ・ プロフィールと観察記録によって、生徒の変容をとらえようとした。他の評価方法について検討する必要がある。